

アジア研究教育ユニット 2024 年度教育研究報告書

事業課題名	多文化と教育・福祉に関する海外研修プログラム (フィリピン研修)
代表者名	安里和晃
事業概要 (600 字程度)	<p>本事業は、授業・学習支援ボランティア・フィリピン研修の三本柱から構成されており、フィリピン研修は、授業とボランティア活動を通じた学びの延長線上に位置づけられる実践的なプログラムである。学習支援ボランティアでは、主に移民の子が在籍する日本の小中学校に大学生ボランティアを派遣し、日本語支援や学習支援を行う。学生はその活動を通じて、多文化背景をもつ子どもたちが直面する複雑な課題と向き合うことになる。これらの課題は、単なる学力の問題にとどまらず、貧困、移動歴、家庭環境、社会的背景、生物学的要因など、複数の要因が複雑に絡み合っていることを理解する機会となる。</p> <p>こうした経験を基盤にフィリピン研修に臨む。現地では、フィリピン政府の在外フィリピン人委員会 (CFO) を訪問し、日本に移住する前のフィリピン人に対して実施されている渡航前研修の内容に対し、現場の経験を踏まえたフィードバックを行う。これは、来日前の情報提供や準備に対して有意義な示唆を与えるものであり、政策的な意義もある。</p> <p>本事業は、学習支援と国際研修を接続し、多文化共生社会における課題を教育・実践・政策の観点から総合的に考察する機会を提供するものである。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>今年度は就職活動等の事情により参加を断念せざるを得ない学生が複数名いたため、参加者は 3 名と、これまでで最も少人数での研修となった。今回は、日本向けの送り出し機関、日本語学校、フィリピン政府在外フィリピン人委員会、家事支援外国人の研修施設、キリスト教系福祉施設などを訪問し、多角的な視点から移民・労働・教育・福祉に関する課題を学んだ。</p> <p>今回の研修のハイライトは、日本で興行ビザでエンターテイナーとして就労経験のある母子、非正規滞在者として生活した経験をもつ母子との面談であった。日本に興行ビザで来日した経験のある女性は、その後、日本人男性との間に子どもをもうけたが認知されず、フィリピンではひとり親として困難な生活を送っていた。さらに台風により住居を喪失し、母子はホームレス状態となった。こうした状況の中で母子をマニラに招き、聞き取り調査の対象として面談を実施したが、支援の必要性が認識され、結果的に日本人男性からの認知は得られなかったものの、養育費の送金を実現した。</p> <p>また、もう 1 組の母子のケースについても詳細な話を聞くことができ、移民を取り巻く現実の複雑さを実感する機会となった。なお、当初予定されていた在外フィリピン人委員会の訪問は、訪問予定日に天候悪化が予想され政府が休日を宣言したため、中止となった。</p> <p>本研修を通じて、日本に来日したことのある移民の人生が、必ずしも肯定的なものではなく、多くの困難や課題が伴うことを痛感した。外国人労働者政策や移民政策、難民政策など移動を支える制度や支援の在り方について、今後とも深く考察していくことが求められる。</p>